

「1年生と雷雨」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

運動会が終わり 6 月に入って、暑い日が続いていたが、先週は上空に寒気が入り込み、いわゆる「大気の状態が不安定」な日があった。



この日も、文京区は午後に突然の雷雨になり、雷鳴や電光に子どもたちは驚いて、ちょっとパニック状態に陥っていた。折しも月曜日は遠足が予定されていて、子どもたちはその天気を心配していたようだ。



こういう時に子どもたちが作るのが「てるてる坊主」だ。私が子どもの頃は、遠足前日に必ず作った記憶があるが、今は「絶滅危惧習慣」になりつつある。誰が作り始めたのか、あっという間にクラス全員が作っていた。3日間も雨が降り続くわけではなく、おかしな行動だったが、「遠足の日は晴れてほしい」という子どもたちの願いの現れなのだろう。



壁だけでは飾りきれず、とうとう窓ガラスにまで貼りだした。しかし「天への神通力」という点では、室内の壁よりも、外が見える窓のほうが効果は高そうだ。よく見ると「あめやんで」と書いてある。



別のクラスでは、なぜか防災頭巾をつけて、雷雨をやり過ごしていた。これも、一人が始めると、大流行して、一気にクラス全体に広がる行動の一つだ。



雷雨はものの 30 分程度で、うそのように止んだ。こういう状況では、虹が出る事が多く、期待していたのだが、残念ながら出現しなかった。